

管内高卒の求人好調

倍率1.3倍過去10年で最高

来春の高校卒業予定者の求人が好調だ。帯広公共職業安定所によると、十勝管内の9月末現在の求人倍率は1.3倍と過去10年で最高となった。特に建設や飲食・サービス業で求人が急増しており、20日には帯広市内で管内企業の合同就職面接会が開かれた。ただ、希望の職種として事務職を挙げる高校生も多く、企業側は人材確保に頭を悩ませている。

(池田大地)

建設6割増、事務も微増

面接会は同職安主催で、管内の96社と高校3年生約140人が参加した。生徒たちは内定を目指し、志望

動機や学生生活について熱心に語っていた。星槎国際高3年の女子生徒は「多くの企業が集まる貴重な機会

で選択肢が広がる。緊張して7割しか思いを伝えられなかったが、社会人になるのが楽しみ」と話した。

同職安によると、新規高卒予定者の9月末の求人倍



面接会で希望企業の担当者に志望動機などを語る高校生

率は2012年まで0.5〜0.6倍を推移していたが、13年に1倍を突破。今年はさらに前年を0.28倍上回った。求職者数は前年同期比21人増の843人に

対し、求人数は同239人増の1225人。産業別では建設業が同62.6%増の187人、宿泊・飲食サービス業が同40%増の91人と伸びが著しかった。

同職安によると、求人が好調な理由として①団塊世代の退職による人手不足②リーマンショックや東日本大震災の影響で手控えていた新規採用の補充などが挙げられるという。

音更高の進路指導担当の菊池徹教諭は「例年なら面接解禁の9月に採用枠が埋まってしまふ企業も、全体の求人が増えたことで10月以降も受けられるようになっている」と話す。一方、帯広市の建設会社社長は「最近若くは若い人の入社が少ないので団塊世代に働いてもら

っている。技術継承するための元気な高校生を確保したい」という。

ただ職種別の求人では、専門・技術・管理が同56.4%増の1222人に対し、希望の多い事務は同14.4%増の1111人とどまり、星槎国際高の進路指導担当の高橋知行教諭は「生徒に人気が高い事務や販売系の求人は足りていない」と話す。同職安は「事務系以外にも興味がある職種を増やして選択肢を広げてほしい」とアドバイスしている。